

講評

審査委員長

拓殖大学顧問
渡辺利夫氏



共同体へ貢献する幸福 再評価を

私どもの社会が努めていかなければならないことは何か。諸君の真剣な問いが発した3点を浮かび上がらせたい。

一番目は公と私について。現代日本では公に生きる観念が薄れていると諸君は感じていた。私も同感だ。ある国際比較調査では、先進国で不満が最も多く鬱積しているのが日本人だという。原因は、公に生きる意義を伝えない教育にあるのではないか。私益の追求だけでは、何者かのために生き、共同体に貢献することを得られる、心の底から湧き出るような幸せは手にできない。公に生きることが、子どもをなぜか名状しがたい誇りと幸福に導いてくれる。

二番目。何人かの弁論に表れていたが、新型コロナウイルス禍で「共生」の重要性に目覚めさせられた人々は少なくない。誰もあてにせず、信用せず、愛することなく生きるとは不幸なことだ。人間は、相互の絆の中に生きるよう運命づけられている。どうやって共生意識を取り戻せるのか。一緒に考えよう。

三番目。諸君は家庭、学校、職場、海外、地域社会などでさまざまな経験を積んだ。その経験は言語化—つまり文章化やスピーチにすることで初めて「経験知」となる。確かなブロックとなり、いくつも積みあげ、やがて崩れない塊となる。その大きさを成長の証しだ。今後も言語化の力を磨きあげてほしい。

審査委員は次の通り。渡辺利夫（拓殖大学顧問）▷中静敬一郎（岡山放送社長）▷平野啓子（語り部・かたりすと、大阪芸術大学教授）▷葛城奈海（ジャーナリスト・俳優）▷加納正（フジテレビジョン報道局長—新任）▷大久保太郎（ニッポン放送報道部長）▷乾正人（産経新聞社論説委員長）

—敬称略